
初恋

なおとつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋

【ZPDF】

Z4681Y

【作者名】

なあとつと

【あらすじ】

青春のワンシーンを切り取った少年の恋物語

静かな教室

午前中の暖かな日差しが窓辺の席を照らしている

外は木々が落とした赤と黄の葉で染まっている

風にのって聞こえてくる葉っぱ同士のこすれる音が心地よい
教卓には先生が立っていて
古文の訳を説明している

しかし僕の目線は

先生では無くその前に座る
一人の女子に向けられていた

彼女は真剣な目で先生の説明を聞いては
ノートにメモをとっている

僕は彼女が好きだ

……恋愛の対象として

こんな感情を彼女に抱くようになったのはつい最近だ

きっかけは彼女の笑顔だった

「いつものように僕は学校に登校するために家を出る

まだ夏の生ぬるい空氣の中

鞄を肩にかけて道をゆくつまらない

…学校はなにもなくてつまらない

ぼーっと道を歩いていくと

道端に

ノートが落ちていた

ちょっとした好奇心で

ノートを拾う

まだ真新しく、表紙には彼女の名前が書いてあった

普段なら

面倒くさいから捨てていただろう

ただなにも無い学校生活の
足しになればと思つた

「これ、道に落ちてたぞ…」

そつまつて僕がノートを見せる

彼女は読んでいた本から顔を上げた

その状態は偶然にも
真正面で顔をあわせる形になった

僕は彼女の顔から目が離せなくなつた

凛としたまづげ

薄い桜色の唇

普段は伏し目がちで見ることのない彼女の目

それらは僕にとって

とても新鮮だった

僕の手にあるノートを見て

すぐ驚いた顔で

こちらを見た

「あなたが拾ってくれたの?」

彼女の声は鈴の音のような

優しく儂い声だった

「あ、ああそつだ…」

口くちもある僕

すると彼女は急に僕の手を取り
「…ありがとう」

と笑顔を僕に向けた

その瞬間

僕は胸がぎゅっと
キツく締め付けられた

辛くはなかつた

寧ろ心地よかつたくらいだ

その日を境に

僕の毎日は虹色だった

暇があれば彼女を見つめて
ほうつとため息をつく

友達と話している時も

片隅には彼女のあの笑顔があつた

僕がこんな感情を抱いている事を
彼女は知らないだろう

彼女にこの気持ちを伝えたい

彼女に僕の気持ちを知つてもらいたい

いつもそんな事を考えていた

もちろん

どんな風に告白するかも

『自分の思いを受け取つて欲しい

『ずっとあなたが好きでした…』

…ダメだ月並み過ぎる

考えれば考えるほどに

思いが絡まっていく

僕は彼女をどうしたいのか

そばにいるだけでいいのか…？

デートがしたいのか
キスをしたいのか…

そして僕はある一つの答えを出す

人を好きになることと恋をすること

それは似てるけど違う

僕は彼女に 対して
恋をして いるのか……？

「じ ゃあ、 今日 ま で～」

僕が はつと 気付くと
授業は 終わっ て いた

前 の 席をみると 彼女は ノートの 整理 して いた

そ の 中に 僕の 見つ けた ノート が あつた

彼女は ノート の 一 ページ を 破つて

何か 書きこみ、 紙を 折つて 紙飛行機を つくつた

紙飛行機は 角が 綺麗に 折られ て いる

そ し て 彼女は 窓に 向か つて 飛ば す

紙飛行機は そ のま ま 窓から 空に 向か つて 飛び出 して い つた

道の植え込みに白いものが刺さっているのを見た

拾つてみると

紙飛行機だった

…僕はよく彼女のものを拾うな…

ふとやつきの様子が思い出される

そういえば、何か書いてたような…

僕は開いて中に書いてあるものを見てみる

そこには僕の名前と彼女の名前が

相合傘の下仲良く並んでいた

僕はその場でまわれ右をして

来た道を戻つて行つた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4681y/>

初恋

2011年11月17日17時40分発行